Anritsu Advancing beyond

2023年3月期第3四半期 業績概要

窪田　顕文

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2023年1月30日

東証 プライム
証券コード：6754
https://www.anritsu.com

(ノート部記載なし)

注 記

Anritsu
Advancing beyond

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

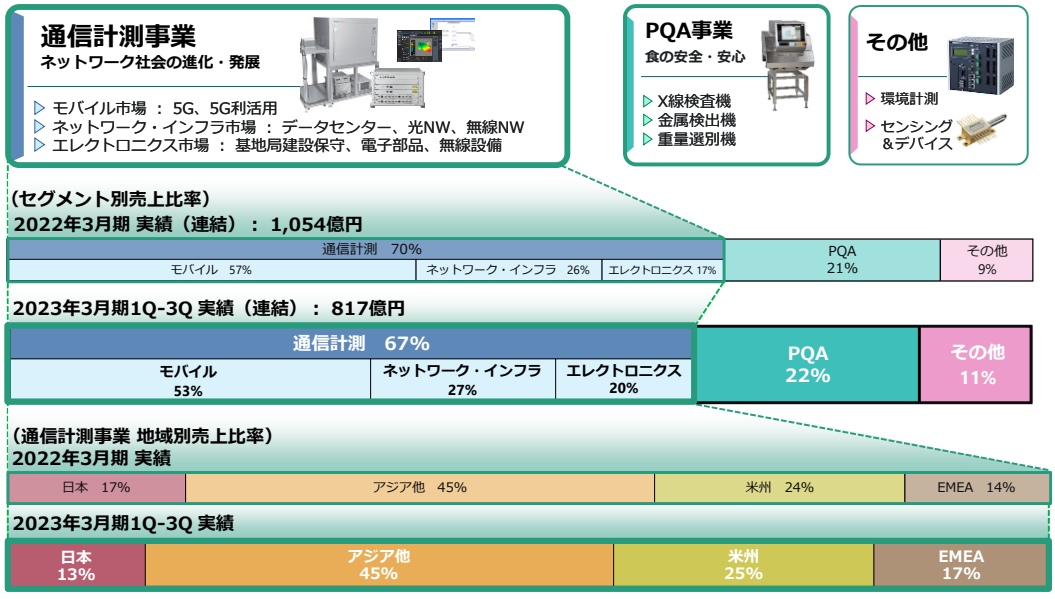
目　次

1. 事業概要
2. 2023年3月期第3四半期 連結決算概要
3. 2023年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

(ノート部記載なし)

1．事業概要

Anritsu
Advancing beyond



PQA：Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

Anritsu Advancing beyond

前年同期比受注は1%増、売上は8%の増収。営業利益は27%の減益、当期利益は24%の減益

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)	前第３四半期連結累計期間(4-12月)実績	当第３四半期連結累計期間(4-12月)実績	前年同期比増減額	前年同期比増減率(%)
受注高	832	840	8	1%
売上高	759	817	58	8%
営業利益	109	80	△ 29	△27%
税引前利益	111	88	△ 23	△21%
当期利益	82	63	△ 19	△24%
当期包括利益	94	90	△ 4	△5%

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

グループ全体の受注高は前年同期比1%増の840億円、売上高は前年同期比8%増の817億円となりました。営業利益は前年同期比27%減の80億円、当期利益は前年同期比24%減の63億円となりました。

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

Anritsu Advancing beyond

通信計測が前年同期比増収だが、営業利益で24%の減益

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)		前第３四半期連結累計期間(4-12月)実績	当第３四半期連結累計期間(4-12月)実績	前年同期比増減額	前年同期比増減率(%)
通信計測	売上高	535	548	13	2%
	営業利益	103	78	△ 25	△24%
PQA	売上高	161	180	19	12%
	営業利益	9	8	△ 1	△18%
その他	売上高	62	88	26	42%
	営業利益	4	2	△ 2	△55%
調整額	営業利益	△7	△8	△ 1	-
合計	売上高	759	817	58	8%
	営業利益	109	80	△ 29	△27%

（注1）値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）
（注2）調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

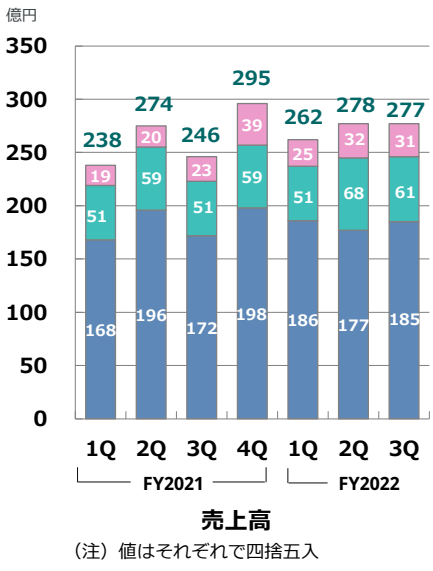
PQA：Products Quality Assurance

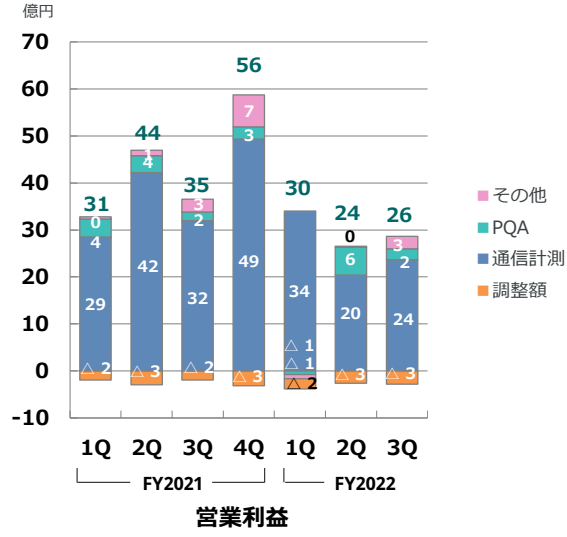
通信計測事業は、データセンター等でのネットワーク高速化に向けた測定需要や汎用測定器（サブセグメントのエレクトロニクスに分類）の需要を獲得しましたが、モバイル市場の成長の一時的な鈍化と、原材料価格の高騰や世界的なインフレ、人件費上昇等による固定費の増加、販売促進費の増加が影響し、売上高は前年同期比の2%増の548億円、営業利益は24%減の78億円（営業利益率14.2%）の増収減益となりました。
PQA事業は、米州を中心に食品市場の品質保証プロセスの自動化、省人化を目的とした設備投資が堅調に推移しました。一方で、販売促進費及び部品調達費や物流費等の増加も影響し、売上高は前年同期比12%増の180億円、営業利益は前年同期比18%減の8億円（営業利益率4.4%）の増収減益となりました。
その他の事業では、2022年1月4日付で株式会社高砂製作所を連結子会社とし、前年第4四半期より同社を連結対象としています。この結果、売上高は前年同期比42%増の88億円、営業利益は前年同期比55%減の2億円となりました。

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

Anritsu Advancing beyond

3Q(10-12月)営業利益率：連結 9%, 通信計測 13%, PQA 4%





（注）値はそれぞれで四捨五入

第3四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結	26億円（営業利益率： 9.3%）
通信計測	24億円（営業利益率：12.8%）
PQA	2億円（営業利益率： 3.8%）

2-4. 事業別営業概況

Anritsu Advancing beyond

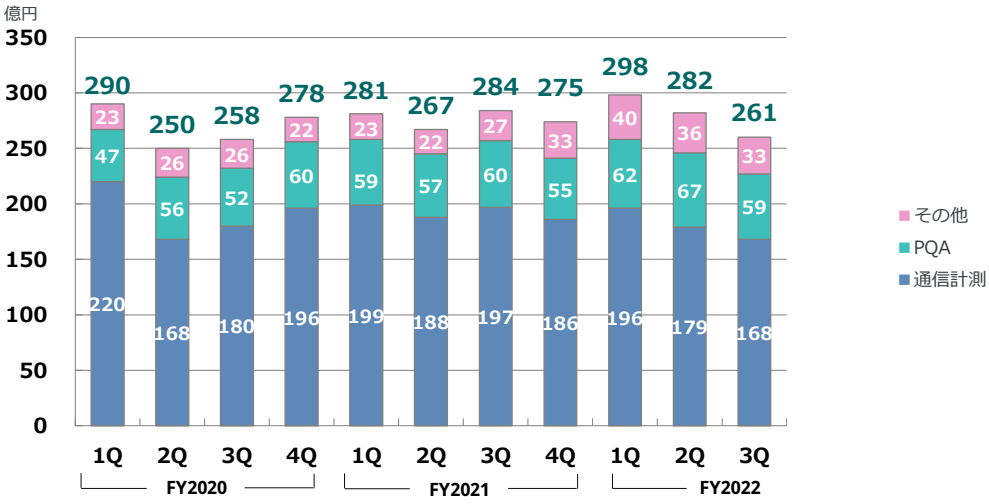
セグメント　2023年3月期（4-12月）の状況	
➡ 通信計測：世界的な物価、人件費上昇等で、顧客は設備投資に慎重姿勢 固定ネットワークの高速化需要は堅調 部品不足については改善傾向	
モバイル	経済状況の不透明さに起因する顧客の投資判断の遅れなどにより、モバイル市場の成長が一時的に鈍化
ネットワークインフラ	米欧中心に固定ネットワークの高速化への投資は順調に推移
アジア他・日本	5Gサービスへの投資増には慎重な見方
アメリカ	固定ネットワーク高速化への投資は順調 5G基地局敷設は進展も、建設保守用測定器への投資はこれから
➡ PQA：アメリカでの需要が堅調、アジア・日本も回復傾向	

(ノート部記載なし)

2-5. 受注高推移

Anritsu Advancing beyond

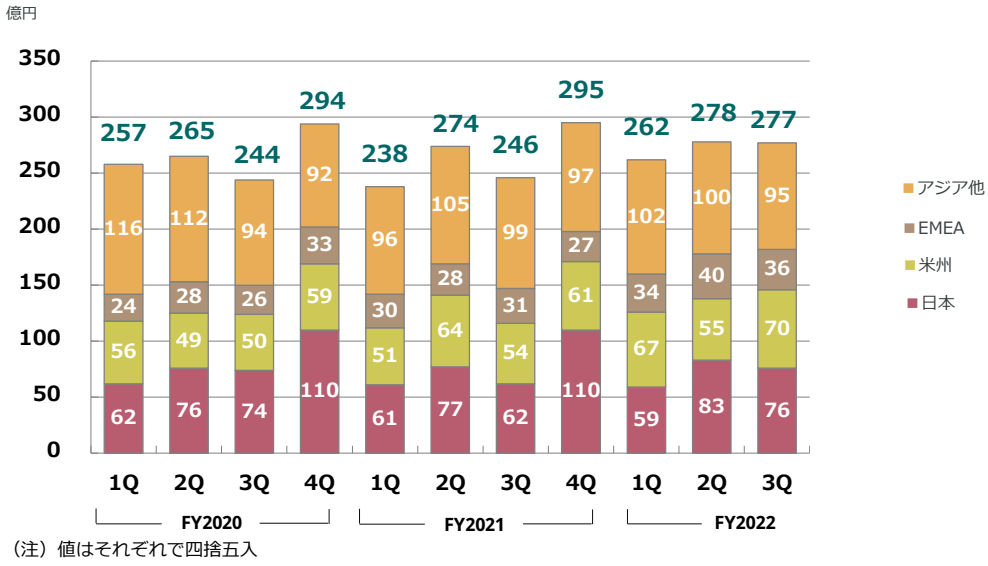
- 通信計測：前年同期比15%減
- PQA　　：前年同期比同水準



（注）値はそれぞれで四捨五入

通信計測事業の第3四半期の受注高は、前年同期比15%減の168億円となりました。PQA事業の第3四半期の受注高は、前年同期比同水準（0.3億円減）の59億円となりました。
なお、受注残高はグループ全体で373億円（前年同期比17%増）、通信計測事業では234億円（同4%増）、PQA事業では75億円（同11%増）でした。

2-6. 地域別売上高推移



（注）値はそれぞれで四捨五入

(ノート部記載なし)

2-7. キャッシュフロー

Anritsu Advancing beyond

営業CFマージン率 5.8%

FY2022（4-12月）
①営業CF：　47億円
②投資CF：　△41億円
③財務CF：△112億円

フリーキャッシュフロー
（①＋②）：　7億円

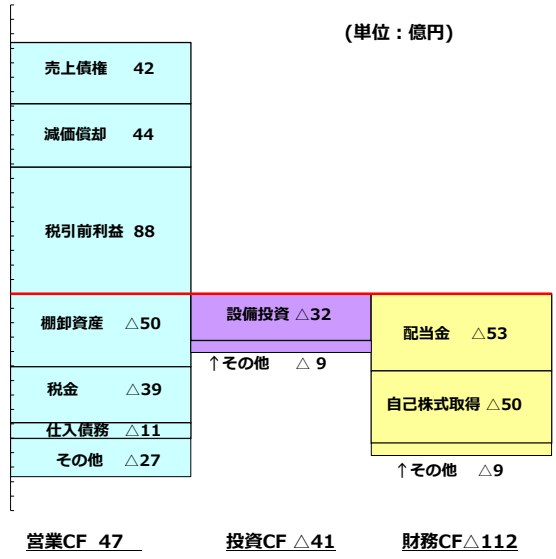
現金同等物期末残高
367億円

有利子負債高
67億円

（注）値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位：億円)



営業キャッシュフローは、47億円の資金獲得となりました。
投資キャッシュフローは、41億円の資金支出でした。
その結果、フリー・キャッシュフローは7億円の資金獲得となりました。
財務キャシュフローは、112億円の資金支出となりました。主なものは、配当金の支払い53億円（期末配当分１株20円および中間配当分１株20円）と自己株式の取得50億円です。
以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より90億円減少の367億円となりました。

3．2023年3月期　通期業績予想（連結）

Anritsu Advancing beyond

2022年10月28日に公表した通期業績予想を下記のとおり修正

配当は、期初計画とおり1株当たり年間40円を予定（期末配当：20円）

（単位：億円）

		2022/3期				
		前期実績	通期予想		前期比	
			前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率(%)
売上高		1,054	1,150	1,100	46	4%
営業利益		165	175	135	△ 30	△18%
税引前利益		172	190	145	△ 27	△15%
当期利益		128	140	110	△ 18	△14%
通信計測	売上高	733	780	730	△ 3	△0%
	営業利益	152	160	120	△ 32	△21%
PQA	売上高	220	240	240	20	9%
	営業利益	12	13	13	1	11%
その他	売上高	101	130	130	29	29%
	営業利益	11	12	12	1	7%
調整額	営業利益	△ 10	△ 10	△ 10	0	0%

（参考）FY21 為替レート　：1米ドル112円、1ユーロ131円
FY22 1Q-3Q実績為替レート　：1米ドル137円、1ユーロ141円
FY22 4Q想定為替レート　：1米ドル125円、1ユーロ135円

（注） 2022年1月4日に統合完了した高砂製作所の業績は、その他事業に含まれています。

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

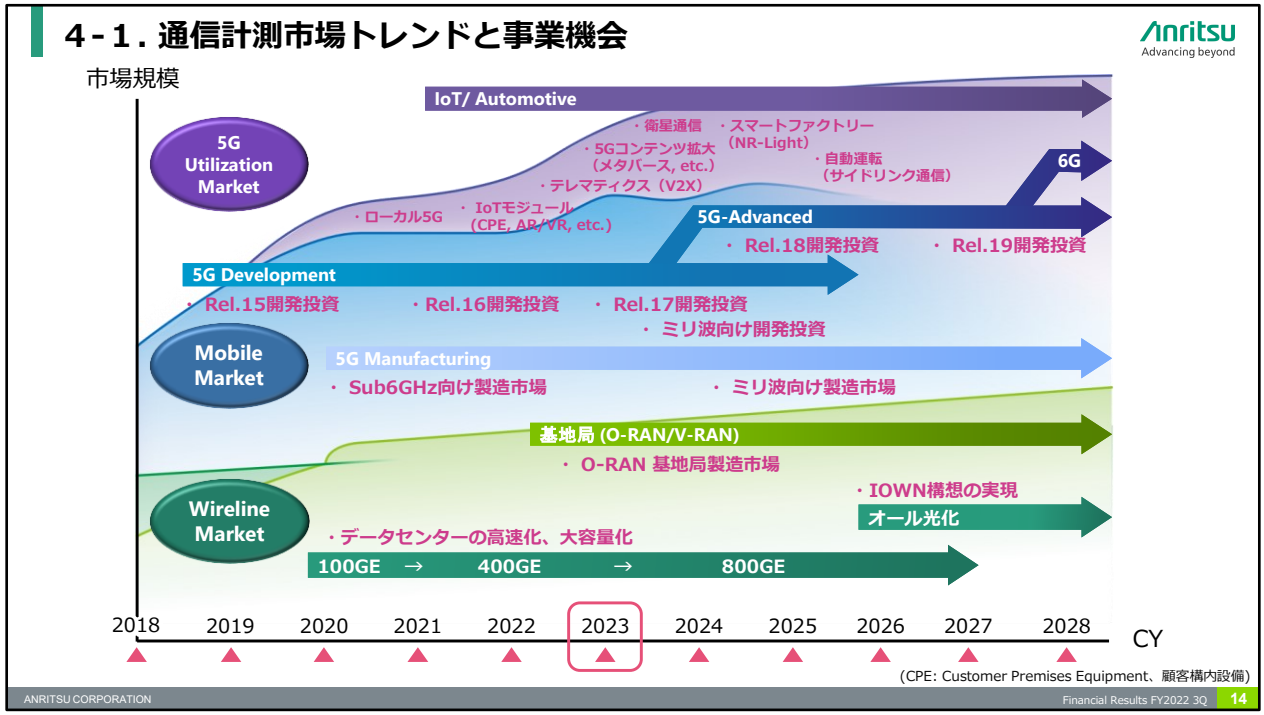
当期の業績見通しについて、2022年10月28日に公表した業績予想を修正します。
世界経済は、物価上昇に加え、金融引き締め政策や地政学的リスクの高まり等により、景気後退が懸念されています。
当社グループの主力である通信計測事業においても、急激なインフレによる経済状況の不透明さに起因する顧客の投資判断の遅れなどにより、モバイル市場の成長が一時的に鈍化しています。また、原材料の高騰及び世界的な物価上昇に対して価格転嫁を進めていますが、収益性の改善効果が期待できるのは第4四半期後半からと見ています。一方、部品調達リスクに対しては調達の多様化等を進めており、改善傾向にあります。
このような状況から、第３四半期の実績も踏まえて、通信計測事業の売上収益を50億円、営業利益を40億円それぞれ下方修正します。第４四半期の想定為替レートは1米ドル125円、1ユーロ135円に見直しています。
PQA事業及びその他事業においては、業績予想の変更はありません。
営業利益の修正、金融収益・費用の計上の影響を織り込んだ結果、税引前利益を45億円、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益を30億円それぞれ下方修正します。
なお、配当については、期初計画どおり1株当たり年間40.00円を予定しております。

４.当社の取り組みについて

濱田　宏一

アンリツ株式会社
代表取締役　社長

(ノート部記載なし)



2020年-2021年は世界的なパンデミックやミリ波のエリア展開遅れなどにより5Gサービスの普及は緩やかになっています。
2022年以降の欧米での5Gサービスの拡大や、ローカル5G・プライベート5Gといった個別ネットワークの活用拡大、メタバースなどに代表される5G活用のコンテンツ創出により、5Gの活用領域は今後も拡大が見込まれていますが、5Gサービスの現在の普及状況を踏まえ、各国オペレーターやスマートフォンメーカーの5Gへの投資は、短期間の集中的な投資から、数年間に渡る継続的な投資にシフトしてきていると捉えており、5Gの計測器市場は、スマートフォン需要に5G利活用の需要を加えながら、しばらくはなだらかな需要が続いていくと想定しています。

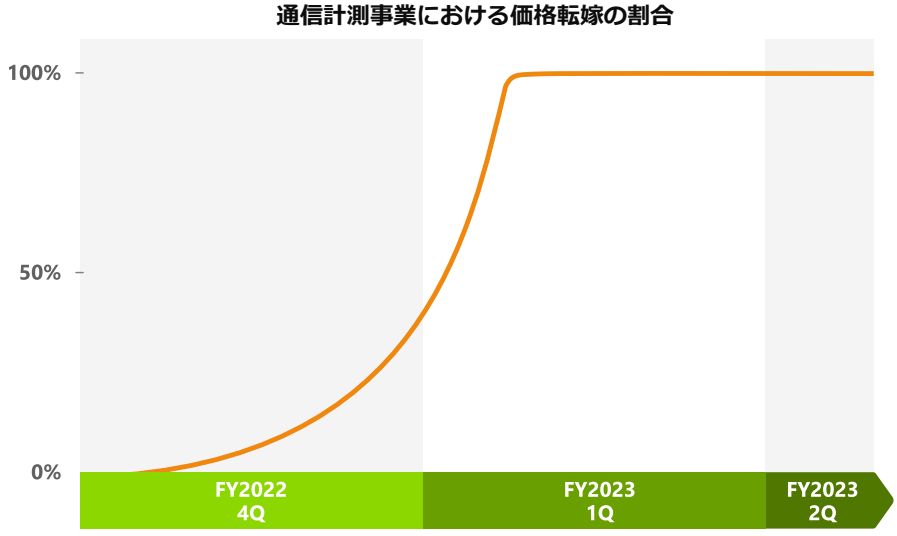
5Gシステムとしても、3GPPリリース15ではスマートフォンが主要領域であったものが、リリース16/17の標準化によりIoT/Automotive/ローカル5Gなどの5G利活用領域に広がり、さらに6Gの一部の機能・性能を取り込む5G-Advancedを経て、2028年頃の6Gシステムに段階的に移行することを目指しています。

さらに、モバイルの進化に合せて、基地局のO-RAN化や光ネットワークの400GEから800GEへの高速化、オール光化など、ネットワークの高度化に向けた動きがネットワーク向けの計測器需要を牽引すると捉えています。

4-2. 通信計測事業における価格転嫁

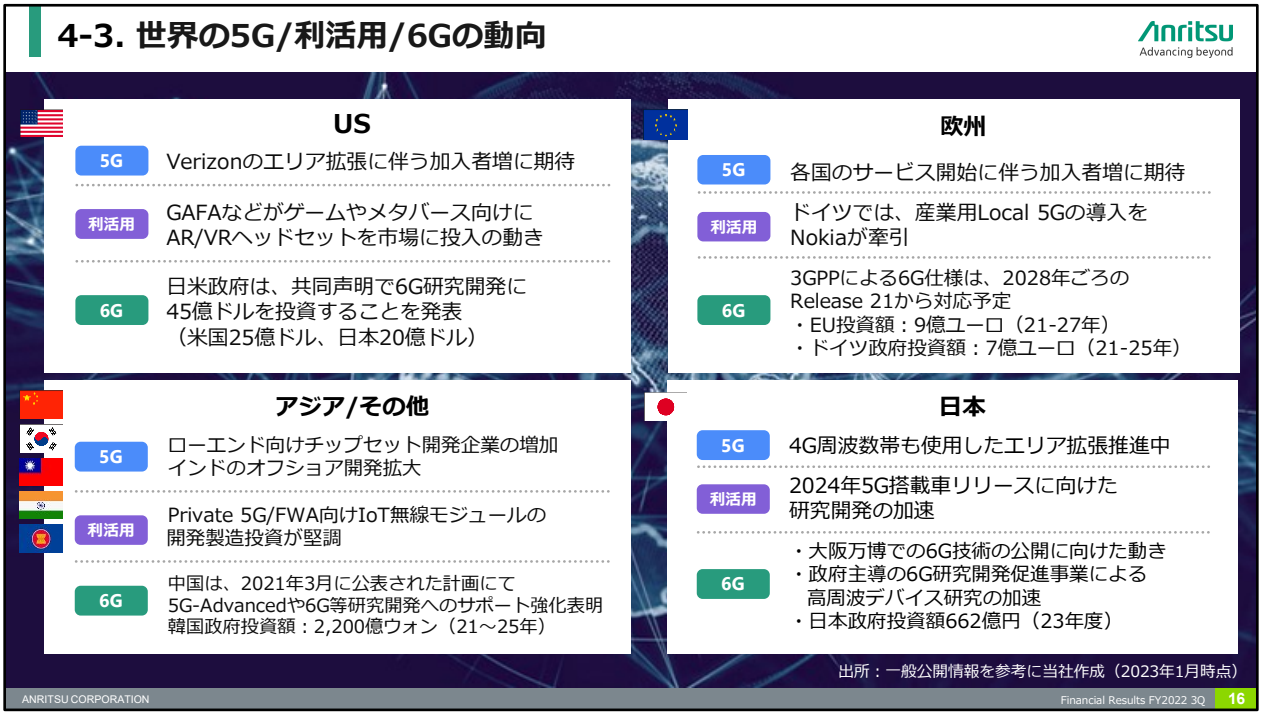
Anritsu
Advancing beyond

価格転嫁効果はFY2023 2Qから100%反映



グラフはイメージ

(ノート部記載なし)

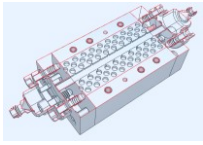

4-3. 世界の5G/利活用/6Gの動向
Anritsu
Advancing beyond
US
5G
Verizonのエリア拡張に伴う加入者増に期待
利活用
GAFAなどがゲームやメタバース向けに
AR/VRヘッドセットを市場に投入の動き
6G
日米政府は、共同声明で6G研究開発に
45億ドルを投資することを発表
（米国25億ドル、日本20億ドル）
欧州
5G
各国のサービス開始に伴う加入者増に期待
利活用
ドイツでは、産業用Local 5Gの導入を
Nokiaが牽引
6G
3GPPによる6G仕様は、2028年ごろの
Release 21から対応予定
・EU投資額：9億ユーロ（21-27年）
・ドイツ政府投資額：7億ユーロ（21-25年）
アジア/その他
5G
ローエンド向けチップセット開発企業の増加
インドのオフショア開発拡大
利活用
Private 5G/FWA向けIoT無線モジュールの
開発製造投資が堅調
6G
中国は、2021年3月に公表された計画にて
5G-Advancedや6G等研究開発へのサポート強化表明
韓国政府投資額：2,200億ウォン（21～25年）
日本
5G
4G周波数帯も使用したエリア拡張推進中
利活用
2024年5G搭載車リリースに向けた
研究開発の加速
6G
・大阪万博での6G技術の公開に向けた動き
・政府主導の6G研究開発促進事業による
高周波デバイス研究の加速
・日本政府投資額662億円（23年度）
出所：一般公開情報を参考に当社作成（2023年1月時点）
ANRITSU CORPORATION
Financial Results FY2022 3Q
16

(ノート部記載なし)

4-4. 6Gに向けてのアンリツの取組み

Anritsu
Advancing beyond

- 100GHz超の
  ミリ波設計技術
- ～300GHz帯の
  受動素子の研究



1mm

ギャップ導波路

Full Duplex通信時の
電波干渉の測定技術

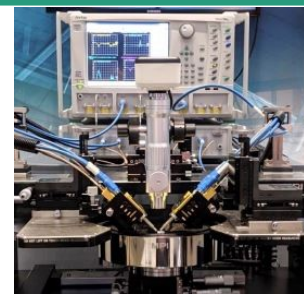
IOWN GLOBAL FORUM

O-RAN ALLIANCE

6G
アンリツの取組み

- 5Gの10倍の通信速度
- 5Gの1/10の低遅延
- 拡張性
- 消費電力を現在の1/100
- 自律性

Beyond 5G/6G
材料、基板、デバイス、アンテナの性能評価
ME7838シリーズ
ベクトルネットワークアナライザ



■ **特 徴**

ミリ波拡張モジュール追加により、
6Gに求められる330GHz帯の
高周波試験に対応

■ **対象顧客**

高周波デバイスの研究機関および
大学、デバイスメーカー、素材メーカー、
通信機器メーカー

(ノート部記載なし)

(ノート部記載なし)